

## 言動が強くなりやすいAさんの優しさや柔らかさを引き出すために

社会福祉法人せたがや榎の木会 上町工房

梶 由香里

(関係性)

### 1. 事例の概要

Aさん（30代女性、知的障害、愛の手帳2度 身障4級）

Aさんは作業に一生懸命に取り組み、作業での充実感が過ごしの張りになっている。巧緻性、認知力が高いわけではなく、任せられる作業は少ないが、どの仕事にも意欲を見せる。複雑な作業は間違いやすくなるため、設定物を活用し取り組んでいる。また、集中して丁寧に取り組むには、作業量を細かく区切り、お互いに確認を行うといった配慮も必要。行事や外出への期待も大きく、人を頼って安心した状況では持ち前の明るさや優しさが発揮される。言語性が高く、会話が大好きで楽しめるが、その場の活動に気持ちを向けてもらうためにはリードは必要である。コミュニケーション能力の高さに比べ、実際の言語理解が追いついていない面もある。苦手意識や緊張感のある状況では強い言動が出やすく、対応の難しさを感じることも多い。



### 2. 課題の理解と目標設定

本人の言動の強さや対応の難しさを感じる部分は、①周囲の騒々しい雰囲気や否定的な言葉に同調しやすく、すぐに反応してしまうため、②場面の切り変わりでは状況をつかめず、何を求められているか、何をすべきかがわからないためであり、言動の強さに本意はなく、状況が「分からない」ことでの緊張感や、気持ちが追いつかない面もあるのではないかと捉え、対応を整理した。その中で、活動や行事に安心して参加でき、仲間と共に楽しむ経験を重ねることで、明るさや優しい面を発揮できることを目標にしてきた。

### 3. 課題への支援方法

①の周囲に同調して反応してしまうような時は、肯定的な声かけや、本人の否定的な言葉が出る前に、先取りして声かけをするなどして、気持ちを立て直したり気持ちがプラスに向きやすいやりとりやキーワードに工夫して、同じ声かけを続けたりした。(エピソード①『元気だね～』動画で公開いたします)

②の場面の切り変わり時の緊張感は、状況の分からなさ、掴めなさや捉え、事前にスケジュールの確認をしたり、役割のお願いや分かりやすくイメージできる現物を見せたりすることで、見通しを持って目的的に動けるよう工夫した。(エピソード②『そっか！PT指導だったんだね』動画で公開いたします)

### 4. 支援の結果

①の結果、周囲に同調して否定的な気持ちが言動にならないように済むように、気持ちがこちらに向くよう楽しい雰囲気を作り、肯定的な声かけを続けることで、プラスのやり取りがパターンになった。そうになると、周囲の状況を柔らかく受け止めることができたり、職員の言葉を真似て、プラスの言葉が増えたりしてきた。

②の結果、見通しの持ちづらさ、分からなさからの緊張感や怒りも、楽しい雰囲気作り、事前の分かる方法でのスケジュールの確認、イメージできる現物を見せることで、動きやすさや気持ちよく応じることが増えてきた。

